

令和7年度こうべ食育推進調整会議 議事要旨

日時：令和8年1月22日（木）

午後3時～午後4時30分

会場：神戸市役所1号館21階 健康局大会議室

1. 開 会

2. 資 料

- ・ 令和7年度こうべ食育推進調整会議委員・アドバイザー・事務局名簿
- ・ 資料1 次期計画策定に向けたスケジュールと方向性
- ・ 資料2 神戸市食育推進計画（第4次）のモニタリング指標の現状値
- ・ 資料3 神戸市における主な食育推進事業（令和6年度実績及び令和7年度計画）
- ・ 資料4 令和7年度主な食育の取組
- ・ 参考資料 神戸市食育推進計画（第4次）・参考資料

3. 議 題

（1）次期計画策定に向けて

①次期計画策定スケジュールと方向性について

事務局：資料1の1ページ目には、神戸市・兵庫県・国の策定スケジュールを示している。現在の第4次計画は、コロナ禍で策定を半年後らせ、令和3年9月とした。第3次計画までは、市と国が同時期策定だったため、国の方向性や重点課題の把握がしにくかったが、第4次計画からは、策定しやすくなった。一方、兵庫県の計画とは、まだ市の方が半年間先行している。事務局としては、国だけでなく、県とも方向性や重点課題を共有し、本市の計画を策定すべく、本市の第4次計画の終期を1年後延長し、国の策定から1年半、県からは半年後となる令和9年9月に本市の第5次計画を策定したいと考え、提案させていただく。

座長：国・兵庫県の流れを見て、進めていくというスケジュールに調整したいということでした。ご提案通りご了承したということにさせていただきますが、よろしいでしょうか。

委員：意見なし

座長：特に問題ないようですので、そのようにさせていただきます。

②神戸市食育推進計画（第4次）のモニタリング項目の現状値

・事務局より、資料2に基づき、モニタリング項目の現状値について説明。

○質問・意見

委員：若い世代の「主食・主菜・副菜をそろえる人の割合」が、令和3年と令和7年を比較して上がっている。（改善している）他の指標より分かりやすく上がっており、国の現状値より良い結果だが、何か背景について検討などされているか。

事務局：この結果を見て、メンバーで検討したが、国とはアンケート調査の方法で差はない。令和3年より5年間、随時啓発してきたのでその結果であればうれしいが、はっきりとした要因については分析できていない。

委員：「朝食欠食者の割合」は変化がないので、関心が低い人はそのまま、関心が高い人がついてきているのではないかと少し思った。どういう人がバランス良く食べられるようになったかということがわかると、政策に反映させて改善していけるのではと考える。

事務局：(R2・3の)市のアンケートはWebでの回答形式にした。このような回答形式でも回答していただける方は食生活に関心がある方ではないかと思う。

座長：方法の差なのか、なにか良い取り組みがあるのかなど、今後のここに注視しておこうというご意見をいただいたので、よろしくお願ひしたい。

委員：「朝食欠食者の割合」について、小学校と中学校は全数を把握できるような調査か。また、20歳以上はあらかじめ対象者を決めて、以前は郵送で、今回はWeb形式ということであっているか。また、Web形式は、どのように対象者を設定しているのか。他のアンケートに答えた人に案内を出しているのか。

事務局：小学生・中学生は、(市学力定着度調査で)全数把握できる調査となっている。15歳以上の方は、住民基本台帳のほうから、無作為抽出で対象者を設定し、アンケート回答用の2次元コードを付けた調査依頼書を郵送した。(R2・3)

【事務局補足：2023（R5）年健康とくらしの調査は対象者が20～64歳で、
国調査と同様の無作為抽出・郵送回収方式】

委員：(Web方式の)回収率はどのくらいか。また、以前の調査とはどのくらい差があるか。

事務局：回収率は25%くらいであった。以前の郵送形式では、若い世代は30%代であった。高齢者には60代の方は50%程度回答いただいた。Web形式、郵送形式では、回答率にかなり差があるということが分かった。

委員：以前は、郵送で50%、現在はWeb形式で30%であるとのことで、この回答率では市民全体を把握しているものというのは難しいと考える。参考資料として、提示いただいたが、この結果を信じて改善しているとすることは難しいと感じる。

委員：インターネットできる人は、食に関してさまざまな情報を得られているので、インターネットを利用したアンケートに回答する人は、意識が高い人の可能性があるため、偏りが出ている可能性がある。

(2)「神戸市における令和7年度主な食育推進事業」

・事務局より、資料4に基づき、方向性の柱Ⅰの取組①～⑥について報告

- ①「セルフチェック事業」【健康局保健所保健課】
- ②「オーラルフレイル対策事業」【健康局保健所保健課】
- ③「小学校フッ化物洗口事業」【健康局保健所保健課】
- ④「学校給食を通じた食育の推進」【教育委員会健康教育課】
- ⑤「「K O B E ストップ the 食品ロス」運動」【環境局資源循環課】
- ⑥「保育所等での食事提供を通じた取組」【こども家庭局幼保事業課】

○質問・意見

委員：取組①「セルフチェック事業」について、食生活通信の裏面にレシピ掲載ページにつながる2次元コードが掲載されているが、なにか困ったときや相談したいとき、どこに相談したらよいかというのが、これではわからない。

事務局：各区のほうで月に1回程度、栄養相談の日を設けている。そちらに申し込めばと管理栄養士が栄養相談を実施している。

委員：なにかスムーズに栄養相談につながる事ができたらと思うが、現在のチラシでは、レシピで終わっているのだから、2次元コードから、栄養相談についての情報発信を行うのがよいのではないか。

事務局：市食育ポータルサイト「こうべ食フレ！」では、様々な情報を発信しており、生活習慣病の分野別に、例えば、血圧が高い人へ向けて食事のアドバイスを掲載している。そちらのほうへリンクをかけると市のホームページからお問い合わせフォームに相談ができるようになっている。

座長：限界はあると思うが、2次元コードを掲載する際は、市と市民とがコミュニケーションが取れる場があるといいのではという、ご指摘だったので、この取り組みに限らず、できることはしていただけたら、ありがたい。

委員：取組④「学校給食を通じた食育の推進」について、学校給食で、中学校の給食が1月から始まった。私の周りの人には評判がよく、良い成果が出たと感じている。お礼申し上げます。これからもぜひ頑張ってください。学校給食で提供している商品について美味しかったなどの声がきこえてくる。多くの量を提供するのは大変だが、地産地消推進のため、市内の学校へ提供できるよう頑張っていきたい。

委員：取組④「学校給食を通じた食育の推進」に関連して、中学校の食育について、なにか取り組んでいることがあるか。

事務局：中学校では、家庭科などの授業を通して、必要なエネルギー量や栄養バランスについて学ぶ機会などがあり、すでに各教科と連携した食育が進んでいる。今後は、給食を通じて、どのような食育ができるかを検討していく。小学校ではすでに実施しているが、当日の給食に使われている食材の紹介について、放送委員が読み上げる簡単なシナリオを作成・提供し、食に興味を持ってもらえるような取り組みを行っている。また、近年、やせ願望から給食を減らす生徒もいるが、学校から要請がある場合、栄養教諭が出前授業を行うなど、必要に応じて段階的に食育を進めている。

委員：取組④「学校給食を通じた食育の推進」について、私の子どもも中学3年生で、今月（1月）から給食が導入された。お弁当のときは、ご飯は温かいが、おかずは冷たく、クラスの中でも10人くらいしか食べていない状況だった。全員喫食の給食になって、おかずも温かいのと、お弁当の時は短かった食べる時間も、給食では配膳があることで（全体の時間が）長くなり、前よりもゆっくり食べられるようになったと聞いており、改善しているようだ。学校に行きづらい子も多くなっているが、教室には行けない子が、サポートルームに登校し、そこで給食を提供してもらい食べることもできるようだ。美味しい給食を食べたいから途中からでも学校に行こうという声を何人かから聞いている。サポートルームでの給食提供を認めてもらい、ありがたく感じている。また、学校に行けない子や、通信制の高校に通う子等は、行政とのつながりがなく、情報が途絶えてしまう。唯一、地域福祉センターの入り口などに置いてあるチラシで情報知ることができる。現在、繋がっていないひとにも情報が届く場所になっていけたらと思う。

委員：取組③「小学校フッ化物洗口事業」で、なぜ対象者が小学校6年生からなのか。知り合いの小学3年生の子が、歯が痛くて職員室の前で泣いており、実際にむし歯だらけだった。小学5、6年生は、親と喋らなくなり、チラシを持って帰っても親に渡さないこともあるのではと思った。小学2、3年生のほうが、対象としては、より効果的なのではないかと思う。

事務局：この事業は、健康局と教育委員会で連携し、進めている。今年度は、モデル実施ということで、実施しやすい小学5、6年生から取り組みを開始した。来年度からは、学年を拡大していく方向で調整している。最終的には、全市で、全学年に展開することができたらと考えている。

委員：取組①「セルフチェック事業」について、BMIの考え方になっているので、身体

的な活動、運動に関するメッセージも盛り込むのがよいのではないか。それらが掲載されていないと、筋トレをしている人では、筋肉量が多く、体重が重くなり、肥満と誤判定され、食べすぎと誤解する人もいる可能性もある。神戸市は健康増進計画がないため、食育の啓発を行う際、運動の要素も入れていたほうが、高齢期になってからのフレイルの予防にも関係するのではと思う。身体活動と栄養のバランスで健康が成り立っていると考え、どこかで、運動のことについて補足しておく必要がある。

委員：生涯を通じて健康をサポートしていくのが、行政・教育・社会でも課題となっている。関係機関の体制・環境を提供していく必要がある。また、各世代での取組を考えるだけでなく、ライフコースアプローチが言われているとおり、健康について無関心になっていく前から、健康というのはなぜ大切かというのを早いときから理解してもらおう教育、取り組みが大切なのではないか。

委員：今の学校では、農作物を作る側の意識について学ぶ機会がないと感じる。以前は、学習園があり、学校でヘチマやジャガイモを栽培していたが、コロナ禍でなくなって、現在も縮小傾向になっている。生産者側の意識をどこかで働きかけられたらよいが、学校の先生が農業高校などを進路先として勧めることはあまりない。生産者は減少しており、それを増やしていくためにはどのようにしてくべきかと考える。

委員：ここで、議論していくのは大変難しい。

座長：理科や家庭科などで、栽培についての勉強はするが、生産者の立場に立っての教育は、なかなか言いにくいところである。広く多方面の分野の方と議論する必要がある。

事務局：学校にビオトープを持っているところでは、小さい面積だが水をはれるので、稲作体験のようなことを実施している。また、コンポストのキエーロを学校に置いて、キエーロの土を野菜の栽培に使用しているが、その際、生産者が野菜栽培の指導者として関わるなどで児童が農について学ぶ機会を設けている。そういった取り組みを少しずつ行っている。

座長：国全体として、農作物などの作り手がないということに課題がある。第一次産業を支える視点を持って教育に携わることは大切と考えられる。

- ・事務局より、資料4に基づき、方向性の柱Ⅱ,Ⅲ,Ⅳの取組⑦～⑨について報告
 - Ⅱ. こうべの自然の恵みと食文化を伝える食育の推進
 - ⑦ 「食都神戸」構想の推進【経済観光局農水産課】
 - Ⅲ. 食の安全・安心の確保

⑧「食に関する情報提供」【健康局保健所食品衛生課】

IV. 食育推進運動と連携・協力体制の強化

⑨「食べとう？KOBE」【健康局保健所保健課】

○質問・意見

委員：取組⑨「市民の食課題解決プロジェクトチーム「食べとう？KOBE」との取り組み」について、食品メーカー等9社で取り組んでいる。1社では集客面等を考えるとできる範囲に限られるが、9社が集まることで非常に良い相乗効果が出ている。結成1年目から産官のみの連携だった取り組みが、産官学連携を実現したのが今年度であった。また、新しい防災レシピを作成するなかで、自社ではなかなか気づかなかったメニューなども他社の商品も使用することで新たな発見があった。年々、取り組み内容が充実しており、夏休み親子クッキングも最初は調理するだけだったが、(2年目からは)買い物体験を取り入れるなど、参加者に大変ご好評いただいている。

委員：取組⑧「食に関する情報提供」について、鶏肉のカンピロバクターについて、事業者が生食提供することは保健所から指導はできないのか。

事務局：事業者のほうには、自粛について依頼しているが、牛肉と違って法的な規制がない。そのため、市としては、消費者に対する啓発動画を作成している。

委員：飲食店を利用した人か、自宅か、どちらで発症している人が多いのか。

事務局：飲食店で提供されたものは、安全だと思い食べてしまう。家での感染はあまりないが、あったとしても、表にはあまり出てこない。

委員：私は、鹿肉をいただくこともあるが、生産履歴書がないと怖くて食べられない。どこで獲れて、いつ解体して、どのように保管したかというのがないといけない。

委員：取組⑨「市民の食課題解決プロジェクトチーム「食べとう？KOBE」との取り組み」について、我々の組織でも「防災キッチンチーム」というのがあり、防災レシピコンテストの受賞作品集の掲載レシピを、アレンジなどして活用している。楽しく学ぶという意味では、この受賞作品集はとてもいいなと思う。また、アレルギーのことも気にしていて、能登半島地震の際も避難所で食べられない子がたくさんいたという話をきく。誰もが食べられるというレシピは難しいかもしれないが、何が配慮できるのかという学習をチームでしている。ローリングストックといっても、長期保存だけでなく、1か月程度の保存期間のものも材料の中に入れて、自分が好きなものをいつでも作れるような備えをしておきましょうという考えを取り入れている。

委員：取組⑨「市民の食課題解決プロジェクトチーム「食べとう？KOBE」との取り組み」について、夏休み親子クッキングが年1回のみで開催で、回数を増えないのは、市の予算的な問題なのか。

事務局：現在、来年度の開催回数について検討を行っている。もう少し多くの方に参加いただきたいと考えているが、企業側も通常業務に加え、「食べとう？KOBE」の活動を行っているため、マンパワーの面で課題がある。

委員：夏休み親子クッキングの会場である、健康ライフプラザのライフキッチンに関しては借りることはできるのか。

事務局：市との共催事業であれば、利用いただける。まずは、相談いただきたい。

委員：取組⑦「食都神戸」構想の推進について、日常的に購入できる機会と報告いただいたが、マーケットは週に1回程度と、日常的と言われたら少し乖離があるように思う。スーパーマーケットなどに神戸産農産物のブースを設置し、広報をすると、普段買い物に来ている人にも気づいていただけたらと思うので、アピールしていくのはどうか。

事務局：神戸産の野菜については、地域資源を活用した環境にやさしい栽培方法で栽培されており、こうして栽培された神戸産の野菜を「BE KOBE 農産物」と表記する取り組みを進めている。例えば、小松菜などの袋に「BE KOBE」という表示をし、スーパーマーケットにも置いている。また、おっしゃっていただいたように、神戸産野菜の常設コーナーの設置を進めており、今後増やしていけたらと考えている。

委員：食育を子どもから大人まで継続して進めていく必要がある。高校生・大学生にアプローチするのが今、一番難しい。先程、適正体重の維持の説明があったが、この年代を取り上げられるような事業を考えていただきたい。今年度、栄養士会では、県からの受託事業で、県下高校20校で講話を行っている。そういった取組を実施することがあれば、協力していきたい。

委員：今回の報告いただいた子ども対象の食育事業について、神戸市ファミリー・サポート・センターにも利用者がたくさんいるので、情報共有いただければと思う。

4. 閉 会